

昭和33年度鶏産卵能力 集合検定を終わって

岡山県養鶏試験場
技師 諏訪 一男

鶏の産卵能力と種鶏の改良を促進するため、県下における種鶏改良繁殖家の方々がたゆまぬ研究と努力を払われ作出され育成された優秀な鶏を、白色レグホン種において290羽、横斑プリマスロック種60羽、単冠ロードアイランドレッド種10羽、ニューハンプシャー種10羽、計370羽受入し、昭和33年11月1日より昭和34年10月16日までの350日間の産卵能力検定を無事終了致しましたので、その飼養管理並びに成績について申述べます。

先ず検定鶏搬入前においては育成中の飼養管理失宜、疾病の発生等鶏の能力低下を来す様な事のない様、出品者に依頼し10月1日より受入検査を実施し次いで10月20日より3日間に亘り搬入することに決定しました。

次に搬入にあたりましては輸送方法、搬入検査による損傷を最少限度に止めるため輸送上の注意、搬入時刻の厳守等をお願いしたが午後遅れて搬入した群があり鶏舎に収容することが遅れ同日の夕餌を給与することも出来ず併せて搬入の3日間はずらしい寒風に見舞れたりして悪い条件が重なり鶏の影響が心配されました。搬入後の予備期間中においては搬入日の憂慮が現実表われ全鶏に亘り下痢便を排泄するものが散見されたので、整腸剤及び抗生物質等の投与を行い鶏の衰弱を防ぐことに全力を挙げましたところ、幸にして10月31日には殆んど快復したのでありますが、一部症状が快復しないで換羽するものがあったのは残念でした。

いよいよ11月1日を迎え検定開始となりましたが、又々上旬にループが発生し相当数に拡がり重ね重ねの苦労を味わったのであります。幸にして比較的早く快復したので11月の産卵率は82%で昨年の78.4%よりはるかに上廻った成績を収めました。この様にして検定期間中の飼養管理、健康管理については出品鶏の品種の特徴、個体の習性を充分に調査把握し四季における環境の変化に対し適切なる対策を講じ換気、室温の急変防止、清潔、乾燥を図り更に飼料配合、摂取量、緑餌の多給等絶えず鶏の観察を怠らず健康多産を目



玉島市柏島 高田辰夫氏
単冠ロードアイランドレッド種
58-363号
産卵箇数 350卵
産卵重量 22,228.0g

標に努力して来たのでありますが本年6月以降激に産卵率が低下したのは本年の炎暑が激しかったことと鶏の耐久力が幾分低下したためではないかと考えます。この様にして本年度の集合検定は事故鶏の多発と著しい暑さのため相当の被害を受けましたが350日で連産鶏が昨年の2羽に対し7羽も出たことは御同慶に絶えません、これは岐阜県種鶏場の8羽に次いで全国第2位でありますことは重ねて慶びに絶えません、今後共種鶏家の方々の繁殖と育成についての一層の研究と御努力を念願致すと共に会場においても飼養管理にあたり細心の注意とたゆまぬ研究を続けて行きたいと考えて居ります。

次に本年度集合検定鶏の主なる成績を申し述べて

岡山畜産便り1959.11・12

見ます。

なお本年から中、四国各県の申し合わせにより検定期間を350日間と改められましたので次の成績は350日間のものであります。

一. 個体産卵ヶ数に於いては

連産鶏

白色レグホン種 4羽

横斑プリマスロック種 2羽

単冠ロードアイランドレッド種 1羽

340卵以上 3羽

320卵以上 34羽

330卵以上 11羽

310卵以上 35羽

300卵以上 39羽

二. 群平均産卵ヶ数

300卵以上 2群 260羽以上 3群

290卵以上 2群 250卵以上 1群

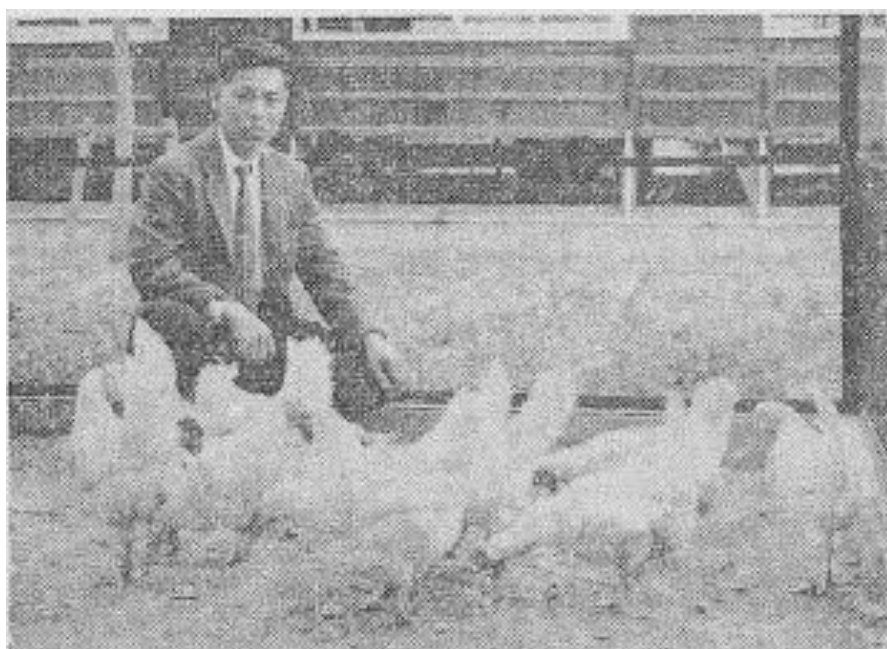
280卵以上 1群 240卵以上 1群

270卵以上 2群

三. 群平均産卵重量

17kg以上 1群 15kg以上 6群

16kg以上 2群 14kg以上 2群



上房郡有漢町 岡島孝志氏

白色レグホーン種

58-191~200号

平均産卵箇数 308.9箇 産卵率88.1%

平均重量 16,837.3g